取組実績の概要

超高齢社会の到来に対応できる歯科医師を養成することを目的として、北海道、北東北、関東の 3 連携大学が、地域医療教育、臨床研修歯科医教育などを担当するステークホルダー（歯科医師会）と協働して、IT を活用した歯学教育プログラムを構築した。第 1 回 WS で、超高齢社会において、歯科受診患者の基礎疾患有病率・服薬率が増加する中で、育成すべき歯科医師像について協議し、「全身と関連づけて口腔を診ることができる」「基礎疾患を有する患者の歯科診療を多職種と連携して安全に行うことができる」歯科医師を養成するための学修目標の設定を行った。

本事業で構築した教育システムは、従来から行われている「一般歯科臨床コース」に在宅医療実習をゴールとする「地域連携歯科医療実習コース」と、医科病棟チーム医療実習をゴールとする「医・歯・薬・保健医療学部チーム医療演習コース」を加えて上記の歯科医師を養成するもので、追加したコースにおける学びを充実させる目的で基礎知識とアクティブ・ラーニングを身につけるために、3 大学で協働して開発した IT 教材を活用した準備教育を行っている。本準備教育は 3 段階からなり、Step1 は 3 年生が対象で、e-ラーニングを活用した「全身と口腔の関連についての基礎知識の修得」、Step2 は仮想患者教育（VP）システムも活用して、4 年生を対象に「コミュニケーション・臨床推論能力の養成」を目標に、各ステップそれぞれ 10 コマの必修授業の中で、授業前に「事前学習課題」に取り組み、授業中に「プレテスト」、ビデオなど映像資料も入った「症例課題」、「ポストテスト」に取り組み、授業後知識の定着を図るために、「復習用課題」に取り組むという流れでアクティブ・ラーニングプログラムを構築した。Step3 は 5 年生を対象に、患者を担当する前に臨床をシミュレーションして学ぶことを目的として、IT 教材を活用した自己学修システムを構築した。3 大学教員とステークホルダーを含めた４つのワーキンググループが、1）口腔乾燥症、2）基礎疾患を有する患者の歯科診療、3）多職種と連携して実施する地域医療（急性期・回復期）に関する教材を作成した。

初年次から電子ポートフォリオシステムを活用して、授業前に目標を設定し終了後にふりかえりを行い、「できたこと」と「できなかったこと」を明確にし、自己の成長を確認し、次に学ぶべきことをしっかりと記憶にとどめ、ゴールを目指して学び続ける習慣を身につけるプログラムを構築した。

5 年生の臨床実習終了時に 3 大学学生交流を行い、地域の異なる 3 大学学生が、入学から学んだ内容を振り返って、高齢者に関する地域医療実習内容をテレビ会議システムで他大学の学生に説明し、ディスカッションを行う。この授業を通して学生は異なる地域の地域医療のあり方を学ぶと同時に、他校の良さを知り、自校の良さも知る機会を得ることができる。また 5 年終了時に本教育プログラムで学んだ知識を確認する目的で e-ラーニングを活用した 3 大学共通試験を実施し、本教育カリキュラムの評価と改善を図っている。

IT 教材を活用した準備教育では、3 大学平均正答率は授業前後、同一学生の 3 年次と 4 年次でいずれも 70～80%に上昇した。学生インタビューの結果、以下の結果が得られた。学修アウトカムとして 1）「IT 教材」が、学修に新鮮さや楽しさをもたらすことで学修意欲が向上し、アクティブ・ラーニングの促進につながった。2）学修プロセスにおいて、学生は「予習・復習の重要性」を認識し、より「深い学修アプローチ」をとることができた。3） 学修成果として、チーム医療や全身疾患と口腔との関連づけの重要性といった「社会ニーズに対応する歯科医療に対する意識」「知識獲得・定着の実感」「コミュニケーション能力」「メタ認知能力」の向上が認められた。4）3 大学共通の IT 教材を活用した教育を基盤として、各大学で地域や大学の特徴を踏まえて実施している地域医療実習や学部連携臨床実習などで学びの深まりを確認することができた。

前述の本教育プログラムのゴールである「医科病棟チーム医療実習」では、歯学部の学生が医科病院病棟で、医学、薬学、看護、理学・作業学科の学生達と 5 人のグループを作り、1 週間患者を担当する。ポートフォリオの解析から、到達できた内容を抽出すると以下のような結果が得られた。1）口腔内の状態を患者や他学部生にわかりやすく説明できた。2）各専門領域で調べた内容をグループで共有できた。3）患者・家族の問題点について、退院後を想定してグループでプロブレムマップを用いて多面的に抽出し、治療ケアプランを立案できた。4）全身状態と口腔内の状態を考慮しながら、治療計画を立案することの重要性を学んだ。

IT 教材の作成や地域医療実習でステークホルダーと協働し、特に地域医療実習の指導を通じて、超高齢社会で活躍する歯科医師を養成する観点で不足している部分をフィードバックしていただき、教育プログラムの改善に反映している。

（代表校名：昭和大学、取組名称：IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成）